

ワイ・エフ物流株式会社

の巻

夏の楽しかった想い出をいっぱい抱えて、厳しい残暑にも負けず、真つ黒に日焼けした顔で元気に子どもたちが登校し始めたばかりの九月六日、事業所訪問の第三回目としてお邪魔したのは、八街市の千葉東金道路山田インターチェンジ近くに所在するワイ・エフ物流株式会社でした。

◇ ◇ ◇

まるで市場のように活気にあふれた光景(配送する品物の仕分け作業



▲ 渡部社長(右)と山野部長

十二年五月に設立されました。同社は、今や総合食品商社として経営がなされているユアサ・フナシヨク株式会社の物流部門として誕生し、親会社の経営の多角化を支える重責を担っておられます。

ユアサ・フナシヨクグループは、約二、〇〇〇以上の企業を擁し、個店の配送にいたっては五、〇〇〇に迫る規模となっているそうです。「安全・確実・迅速」をキーワードに協力会社とともにローコストシステムを確立し、トータル物流を目指しておられるとのこと。

職種柄、三六五日休むことのない同社に勤務されている社員の皆さんは「Y・F・SとH(ユアサ・フナシヨクグループのソリューション(解決)およびヘルス)」をモットーに、個々の目標(課題)を常にもち、これを達成すべく日々研鑽されておられるようでした。



▲ 社屋前

渡部社長は、「親に物申し、親孝行の子ども」となるよう同社を育てたいと、将来のビジョンを語られました。これは、経営者と社員の方々がそれぞれが、自分の立場をまっとうする

中だそうです)に驚きながら、構内を縦断し事務所を訪ねると、今回の取材に応じてくださった渡部社長と、健康管理事業等推進委員として組合運営にご尽力いただいている山野部長が私たちを出迎えてくださいました。

渡部社長は、親会社であるユアサ・フナシヨクから六月に異動してこられたそうです。「物流に関しては素人なので、これから日々勉強」と謙遜されましたが、別の分野を歩まれて得た経験は、新しいアイデアとして物流に導入され、既存のシステムとの効果的な融合を図り、この不況下で勝者になる大きなポイントとして生かされるのは間違いないことが、これから聞きする話の随所に現れていました。

何事も自覚をもち、前向きに取り組むことが大切

はじめに、渡部社長は自らの健康について語られました。

努力が続くかぎり、近い将来に達成可能なことだと私たちは実感しました。

健全な組合運営のための制度改革の早期実現を

取材も終わりに近づき、渡部社長が組合へ要望されたことは、不況下で削減されつつある中小企業の福利厚生に関して、組合員が広く参加できる事業を組合が企業に代わって企画してほしいということでした。

組合設立の意義を理解され、人材を重視される氏の社員のための組合であってほしいとの気遣いからの発言と私たちは受けとめました。さらには、事務局からの現況説明に対して、健全な組合運営がなされるよう、制度改革が早期に実現されることを切望されたことに、私たちは心強さを感ずりました。

こうして、あつという間に時も過ぎ、今日の取材を終えました。渡部社長は、全幅の信頼を寄せる山野部長に「小さな事務所で大きな仕事をやろう」と口癖のようにおっしゃっておられるそうですが、「大きな志があるところには、きっと大きな成果が現れる」と、私たちは確信して帰路につきま

した。皆さん、お忙しいなか、本当にあり

過去に交通事故で入院されて以来大病はしたことがなかったそうですが、数年前、入院にはいたらなかったものの体調を崩されてから、あらためて健康を意識し、定期的に人間ドックを受けられ、また毎夜奥様とウォーキングを励行されていらつしやるとのことでした。「歩くことを始めたおかげで妻とのコミュニケーションも以前より密になった」と、ウォーキングによる健康以外の効果も実感されていらつしやるようでした。

引き続き話題は、従業員の管理・教育に移行しました。氏はご自身の健康管理でも同様なのですが、自らがその気になって自分を管理しなければ、何事も成就しないのだと、「自己管理」を強調されました。

ここで山野部長が、健康に関しても仕事に関しても、人から押しつけられて行動するより本人が自覚をもって工夫を凝らし、前向きに取り組むことが大切であり、「やらされている」のではなく「やっている」に意識を変えるだけで、つらさが喜びに変わり生産性につながるのだと、補足されました。「管理者は、社員の意識を変えるための軌道修正をしてあげるだけ。あとは個人の自由に任せる」とも付け加えられました。

がとうございました。

◇ ◇ ◇

今年の夏は楽しいこともたくさんあったでしょうが、その反面、悲しい出来事もいろいろありました。その一つに、素敵な想い出になるはずのキャンプが、局地的に降った大雨のために多くの尊い命を奪ってしまうという水難事故がありました。

「自由」には責任を伴うもので、裏を返せば、個々の努力を促すという同社の方針は、これからの実力社会にマッチしたものであることは間違いないでしょう。

また社員には、企業の現状を公開しそれを理解する力をつけさせ、経営に参画するのだという動機づけをするのも現代風の手法だと感じました。

同社では社員の採用に際し、「元気にあいさつができること」をまず条件にしているそうです。仕事は経験を積むことにより熟練したものになりませんが、あいさつはその人間を判断するうえで、歩んできた背景を的確に表すものであるとのこと。幼いころから身につけたよい習慣は、社会に出てから大きく実を結ぶものだ和社会の教育環境の大切さを力説されました。

このように、採用の時点で簡単なようでは奥の深い関門を通過した社員の方々が、同社の発展の原動力になっていることはいうまでもありません。

「安全・確実・迅速」をキーワードに「ローコストシステム」を確立

引き続き話題は、社史ならびに業務内容に移行しました。

ワイ・エフ物流株式会社は、昭和五

大人たちのちよつとしたおごりからの判断ミスで、将来ある子どもたちまで犠牲になりました。「大人は子どもたちのよき先達でなければならぬ」とあらためて考えさせられた事故でした。社会の宝物である子どもたちを大切にしたいものです。

亡くなられた方々のご冥福を、心よりお祈りいたします。